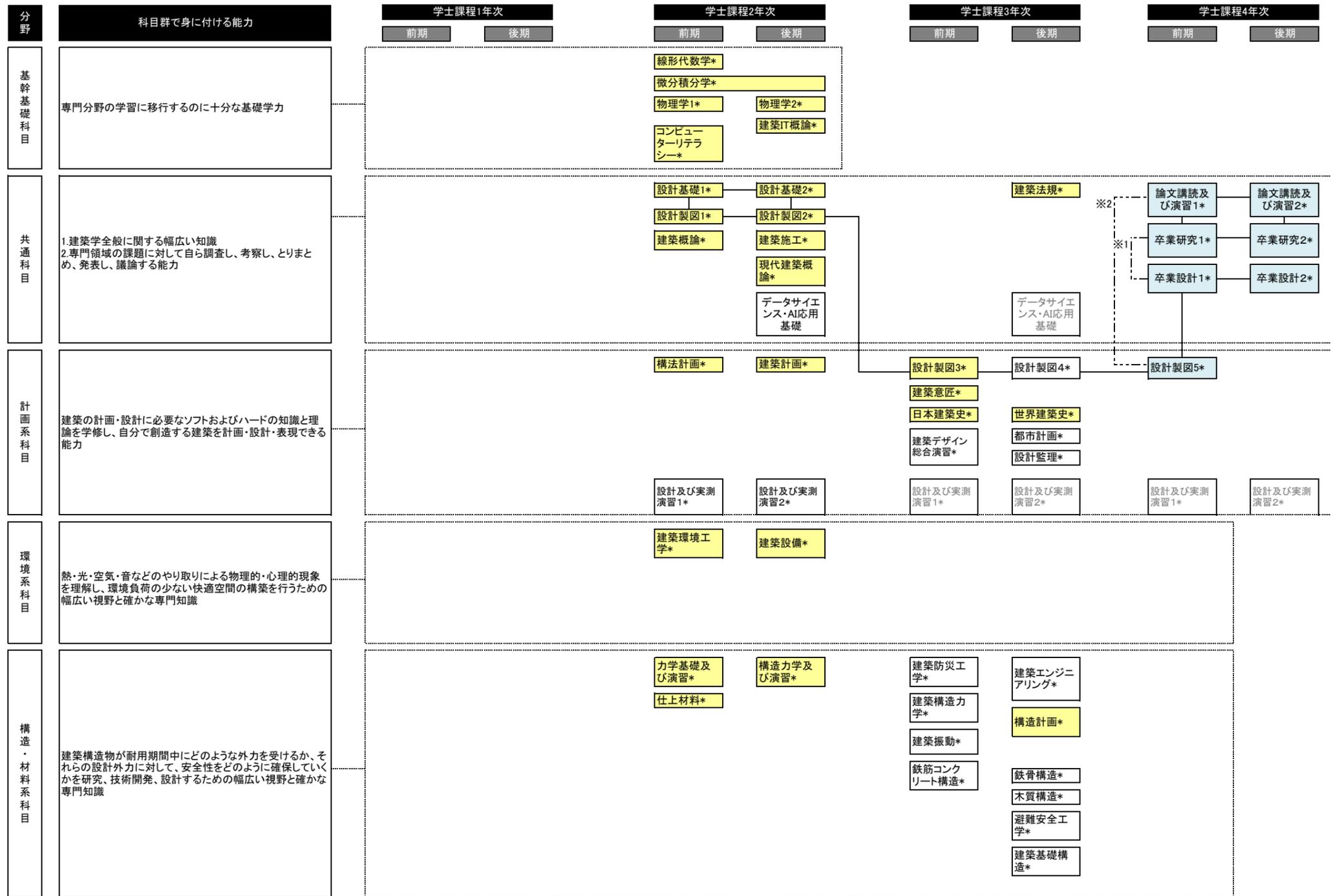


人材育成等に関する目的

建築学科は、ハード・ソフトの両面から、自然・人間・社会の調和した環境の基盤を創出、保全するための知識・能力を身に付けるため、計画・環境・構造に関する専門教育を中心として、バランスの取れた総合的な教育を通じて、真に社会に貢献できる人間性豊かな技術者・設計者等となるための学問的基盤を身に付けた人材を育成する。

- カリキュラム・ポリシー**
1. 建学の精神と、「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」という教育研究理念に基づいて、建築学を通して社会に貢献できる人材の育成を目標に、幅広い基礎知識と高度な専門知識の基盤を備えるための学士(工学)の教育課程を編成する。
  2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持しつつ、社会人学生の多様な就学形態に柔軟に対応できる教育課程を実施する。
  3. 社会人学生の限られた就学時間で基礎および専門知識を効果的に習得させるため、夜間18時以降と土曜日に授業科目を配し、2年次編入後3年間で卒業が可能な教育課程を編成する。
  4. 一般的素養を深めるための「一般教養科目」、建築学分野の基盤をなす「基礎科目」、建築学分野の専門知識、技能を習得し、技術者・設計者・研究者等に必要能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
  5. 建築学分野で活躍するための実務教育をはじめとして、国際性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、倫理観を養う内容を含む学習機会を提供する。
  6. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰する能力、判断力・行動力を養う授業科目を配置する。
  7. 「基礎科目」では、2年次に「基礎基礎科目」、専門基礎科目の授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学習時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」への接続を図る。
  8. 「専門科目」では、講義の他に、演習等の授業科目を効果的に組み合わせることで専門分野の知識と技術を高め、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、建築学分野の専門家としての基盤を醸成する。
  9. 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究・卒業制作を実施し、課題の分析、調査、問題解決の手段を学ぶことで、建築及びその関連分野の自立した技術者・設計者として問題発見・解決能力の育成を図る。
  10. 自身の専門分野を超えて幅広く関心のある科目を履修できるように、他学部・他学科の科目の履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図り、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。
- ディプロマ・ポリシー**
- 実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った建築学分野の技術者・設計者・研究者等の養成を目標とし、以下の知識、能力を身に付け、建築学科の所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。
1. 建築学分野に必要な基礎学力
  2. 建築学分野における幅広い視野と確かな専門知識
  3. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、建築学分野に限らず横断的にもものを俯瞰する能力
  4. 修得した専門知識や教養をもとに、自ら課題を発見し、解決する能力
  5. 修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的な姿勢で判断し、行動する能力
  6. 建築学分野の課題に対して、探究の成果を表現するプレゼンテーション能力
  7. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力



  必修科目   
   選択必修科目   
   選択科目

※1 卒業研究1,2または卒業設計1,2から一つを選択    「\*」:(社)を表す  
 ※2 設計製図5または論文講読及び演習1,2から一つを選択